足利市に築くトルコギキョウの特産地

栃木県足利市
上渋垂町
室田憲一さん

平成4年に家業のトマト栽培を両親に託し、全くの新人ながら自らはトルコギキョウに転進をはかり、22年の間にこの道の最高栄誉である農林水産大臣賞を実に3回も受賞したひとがいる。栃木県足利市の室田憲一さんという若手のバリバリ。JA足利花き部会副部会長もしている。

トルコギキョウで22年の間に農林水産大臣賞を3回も受賞した室田憲一さん

鮮やかな転進ぶり

22年間に大臣賞3回受賞

足利市は栃木県の南西部、トマト栽培が盛んなところで、往時は生産者も100人を越していた。それが高齢化でかなり減っている。室田憲一さんのうちは施設園芸が三代続いた旧家で、初代の祖父はイチゴ、二代の父はトマト、そして三代の憲一さんはトルコギキョウに転進をはかった。彼が24歳のときである。

栃木県の農業大学校を卒えると単身ドイツに渡り、主として花つくりと経営について研修した。

「ミュンヘンの近くで、日本同様広大な土地ではないものですから花壇や家庭園芸用の花を春夏秋冬うまく取り入れているところへ研修に入ったんです」

花といえばオランダへ行くのが普通だが、行った先も初心者にとっては学ぶところが多かったそうだ。帰って間もなくトルコギキョウ栽培を始めた。以来22年になるけれども、彼の技術は抜群でトルコギキョウで農林水産大臣賞を3回も獲得しており、〝栃木に室田憲一氏あり〟と男をあげている。また、JA足利花き部会副部会長に推されて力量を発揮している。

「うちの部会はひじょうに面白い部会なんです。トルコギキョウ栽培者は12人だけれども、農家の人はほとんどおらず、元は建設屋、水道屋、造園屋、銀行マンなどの初心者ばかり。農家の人は数えるしかいなかったんです。農家に生まれ、農家として育つとみな同じに考え、同じ方向に進むと思ったんです。

これでは早晩だめになると思ってね。そのほうが統率が取れてかえってよいではないかと言う人もいたが、決して自分にまことにりっぱといわざるを得ない。

トルコギキョウに転身したのは平成4年だそうで、今年が22年目に当たる。いま油の乗り切ったところだが、技術的に傑出していて、当時作っていたサカタのタネの浜の雪が関東東海花の展覧会で見事1位になり、農林水産大臣賞に輝いたのは平成12年だから、たった8年でトルコギキョウの最高位になったのだから価されている。

ハウスの形状はいろいろあり、元太洋興業のもの、渡辺パイプのもの、サンキンのものなどだが、間口は4㍍、6㍍、中にはサンキンの間口9㍍のものなどがある。作業がしやすいのは柱数の少ないものだそうだ。奥行は45㍍が一番多く、こちらかといえば、葬儀用で、1月、2月に婚礼用のフリルのある花を作っても売れないものイコールお金というわけでもないんです。とはいっても、手を抜くというわけでもありません。

当然いいものは作っていきますけれどもね。だから、何がなんでも、1から10まで理想的にいいものがお金になるかといえば、そうではないですね」という。

外張り
「タイキュート007」主体

透明性高く10年はもつ

外張りのフィルムはハウス全面積が45㍍あるうち30㍍は三菱樹脂アグリドリーム㈱の「タイキュート007」を屋根の全面に展張している。このフィルムは新しい配合技術と表面処理技術の組合わせで製造されたもので、10年展張可能な強度を持ったもので、透明度が抜群によいことと、太陽光もしっかり透すとあって、とくに花の栽培者の間で人気が高い。

憲一さんはこのほかにアクリルとエフクリーンも一部に展張している。

「植物のためにはいいようで、1回張ると20年以上はもつが、紫外線を全部通してしまうのが短所。たとえばカーテンが普通10年もつとするとその半分でだめになる。一回転、二回転とやっていくとリスクが高いんです。

作りやすいのはアクリルですけど、たとえば胡蝶蘭とか花が一方向に向かなければいけないものには使えないんです」、といっており、いずれも「タイキュート007」ほどの評価はつい聞かれなかった。

「タイキュート007」は去年の10月に張り替えたという。「10年張っていて、全然破けていませんでした。だから、このフィルムは丈夫です。それと「タイキュート」の良い点は、エフクリーンよりもピタッと張れる点がいいですといっている。

45アールのうち外張りに三菱樹脂アグリドリームの「タイキュート007」を。サイドにはダイヤスターを展張りしているハウス

来る者拒まず

異業種の集まり

室田さんのうちは憲一さんがトルコギキョウを始めていますが、父のボケ防止のためときつい冗談を言っているけれども、さすが年季入りだからりっぱなものである。

トルコギキョウに転身したのは平成4年だそうで、今年が22年目に当たる。いま油の乗り切ったところだが、技術的に傑出していて、当時作っていたサカタのタネの浜の雪が関東東海花の展覧会で見事1位になり、農林水産大臣賞に輝いたのは平成12年だから、たった8年でトルコギキョウの最高位になったのだから価されている。

ハウスの形状はいろいろあり、元太洋興業のもの、渡辺パイプのもの、サンキンのものなどだが、間口は4㍍、6㍍、中にはサンキンの間口9㍍のものなどがある。作業がしやすいのは柱数の少ないものだそうだ。奥行は45㍍が一番多く、こちらかといえば、葬儀用で、1月、2月に婚礼用のフリルのある花を作っても売れないものイコールお金というわけでもないんです。とはいっても、手を抜くというわけでもありません。

当然いいものは作っていきますけれどもね。だから、何がなんでも、1から10まで理想的にいいものがお金になるかといえば、そうではないですね」という。

サイドは全部「ダイヤスター」

サイドは全部三菱樹脂アグリドリームの耐久無滴農POフィルムの「ダイヤスター」を張っている。「これも優秀なフィルムで、天井に張った場合は5年以上もつといっていますけれども、サイドだと10年はもちます。ですから、サイドに徹したPRをうまくやっていけば、そっちのほうにも顧客がとれると思います」

大臣賞をとるような花をつくる秘訣は、やはりいい花を咲かせることでしょうねというと、「いや、私はそうは思っていないです」と否定された。

「その時々に合わせた経営体制を敷かなくてはいけません。バブル前と後、リーマンショックの前と後ではものの動きが違いますが、そのきれいなものが売れないで、普通の地味な白八重とかが売れるんです。だから、いいものイコールお金というわけでもないんです。とはいっても、手を抜くというわけでもありね」という。

出荷は終わりだというけれども、見事さにつられてパチリ

良い花咲かせるのも技術

連作を嫌う作物

良い花を咲かせるのは技術であることは間違いないところだが、トルコギキョウもトマトも連作は苦手のようで、それを克服して同じものを毎年どのように作るかが最高の技術だと憲一さんは語る。回転を早めれば早めるほど植物に負担がかかるなかで、連作20年とか25年経っても同じものを作りあげるためにはどうするかが、ひとつのポイントでしょうと憲一さんはいう。

土、水、肥料のひとつひとつに、余計な手癖をつけずにきちんとやることです。トルコギキョウはガーベラとかバラよりも遺伝子の数が多い植物で、あらゆる病気に弱い作物で、なかんずく青枯れやフザリウムに弱いので、連作を続けていくなかでどのように生産性をあげていくかが技術上最も大切なことだといっている。

なお、足利の場合は苗はすべて購入苗に依存しているそうだ。

7月9日熊本でエース会交流会

大山寛氏がトマトで講演

三菱樹脂アグリドリーム㈱は7月9日（水）熊本市中央区紺屋今町4－12、リバーサイドホテル熊本において第10回エース会九州交流会を開催する。

会議は二部に分かれて行われるが、第一部は基調講演。演題は「栃木県のトマト栽培の現状とこれからの取組み－将来に夢の持てる野菜栽培をめざして」と題して全野研会長大山寛氏が講演する。

また、第二部は情報交換会「施設園芸の環境つくり」について①栽培における課題・問題点、②自分の体験と工夫について、③資材に対する要望などについて意見・要望などについて提言する。

なお参加費は正会員の場合5、000円（懇談会込み）、また、賛助会員は10、000円。

なお、第一部で講演する大山氏は、世界で最もすぐれているオランダのトマト栽培と経営方式を取り入れており、同国に匹敵する収穫量を上げていることで広く知られているひと。